

重 日本車両

日本車輛製造株式会社

1. 会社の沿革

日本車輛製造は、1896年(明治29年)の設立以来、一世紀を超え鉄道車両製造のトップメーカーとしてわが国の鉄道の発展に貢献するとともに、各種輸送用機器、橋梁、建設機械、車両検修設備ほか、関連分野へ事業領域を拡大し、「インフラストラクチャー創造企業」として進化を続けています。

企業理念である「私たちは、健全経営のもと、最高品質のものづくりを通じて、社会基盤の充実と発展に幅広く貢献していきます」のもと、これからも、創業以来の「ものづくり」に真摯に取り組む姿勢を大切に、社会基盤の充実と発展に貢献していきます。

当社は現在、愛知県内に豊川・鳴海・衣浦3カ所の製造拠点をもち、産業の高度化と社会資本の充実に役立つ製品を製造しています。

特に鉄道車両関連では、それまでの鉄道車両製造の拠点であった埼玉県の蕨工場と本社に隣接した名古屋工場を集約して1964年(昭和39年)に豊川製作所を開所し、1971年(昭和46年)には客電車一貫量産体制を整えた総合車両工場として本格的に稼働を開始しました。豊川製作所においては、国内外の鉄道事業者さまに向け、ステンレス、アルミ、鋼鉄と、すべての素材の電車、気動車、客車の設計・製造が可能で、お客さまのニーズにきめ細やかに対応した車両供給を行っています。



豊川製作所全景

2. 会社概要

会社名 日本車輛製造株式会社
本社 名古屋市熱田区三本松町1番1号
代表者 取締役社長 五十嵐 一弘
創立 1896年(明治29年)9月
資本金 118億円
従業員 1,825名(2019年3月末現在)
製作所 豊川、鳴海、衣浦
ホームページ <https://www.n-sharyo.co.jp>

3. 鉄道車両事業

バリアフリー化や快適性の向上、走行時の騒音・振動の低減、車両の軽量化・省エネ化など、人と環境にやさしい鉄道車両の開発・製造に取り組んでいます。

(1) 新幹線車両

新幹線電車においては試作電車の開発に始まり、1964年(昭和39年)に開業した東海道新幹線の0系を製作して以降、2019年3月末時点までに3,966両を製造しており、この数字は国内車両メーカーの新幹線製造車両数においてNO.1を誇ります。



JR 東海殿 N700S 新幹線確認試験車

(2) 在来線車両

特急型車両、通勤型車両、地下鉄車両をはじめ、新交通システムやレール運搬車等の事業用車両、コンテナ車やガソリンタンク車などの物流車両まで、多様な車両を製造してお



ります。

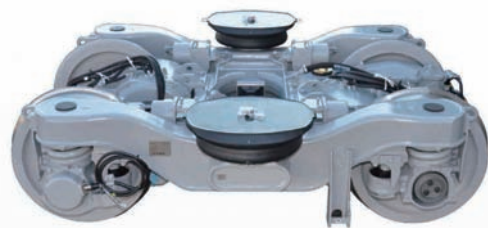
先端の技術を取り入れた高品質な車両を、鉄道事業者さまのニーズに応じて開発・設計・製造しています。

(3) 超電導リニア

超電導リニアは在来線、新幹線の開発の中で培ってきた技術の「集大成」であり、新幹線よりも遥かに速いスピードでの走行に対応するため、より高い安全性、信頼性、機能性が求められます。過去にお納めしたL0系に続く改良型の試験車に取り組むなど、これまでの鉄道車両開発で得たノウハウを活かしつつ、リニア中央新幹線車両の開発・設計・製造に取り組んでいきます。

(4) NS 台車

NS 台車は JR 東海殿と当社とで共同開発した台車です。台車枠の構造と製法を見直し、溶接部を半減するなど強度的信頼性を向上した上で、様々な機器の搭載に柔軟に対応出来る構造が特徴です。また、軸箱支持装置を当社オリジナルのタンデム式とすることで、優れた走行安定性と高い曲線通過性能を実現しています。



小田急電鉄殿 70000 形 NS-101 台車

4. 車両検修設備事業

鉄道車両の定期的な整備に使用される検修設備を各鉄道事業者さまへ納入しています。車両メーカーのノウハウを活かし、様々な車両・設置場所・作業条件に対応した設備の提案により、鉄道の安全・安定輸送の確保に貢献しています。

(1) 新幹線先頭研ぎ装置

車両の再塗装作業では塗装面の地ならしおよび塗料の密着度向上のため、表面を研ぐ必要があります。従来、新幹線車両の先頭部分

はその形状の複雑さから手作業で実施されていましたが、研ぎツールの反力制御による車体表面追従機能を開発することで作業の自動化を実現し、従来の高所作業を解消しました。また、オペレータ1人で操作を行うことができるため、作業の省力・効率化も実現しました。



JR 東海殿 新幹線先頭研ぎ装置

(2) トラバーサ

トラバーサは、線路のない場所で鉄道車両などの重量物を水平方向に移動するための装置です。当社では、自動運転・定点停止など、お客様のニーズに幅広く対応し、工場の構造に適したトラバーサを提供しています。



JR 東海殿 車体トラバーサ

5. おわりに

日本の鉄道車両開発の歴史とともに歩んできた企業として、これからも日本車輛製造は鉄道事業者さま、鉄道ご利用者さまをはじめとする皆さまに愛される鉄道車両を開発・設計・製造して参ります。

【日本車輛製造株式会社

執行役員 鉄道車両本部 副本部長 田山 稔】